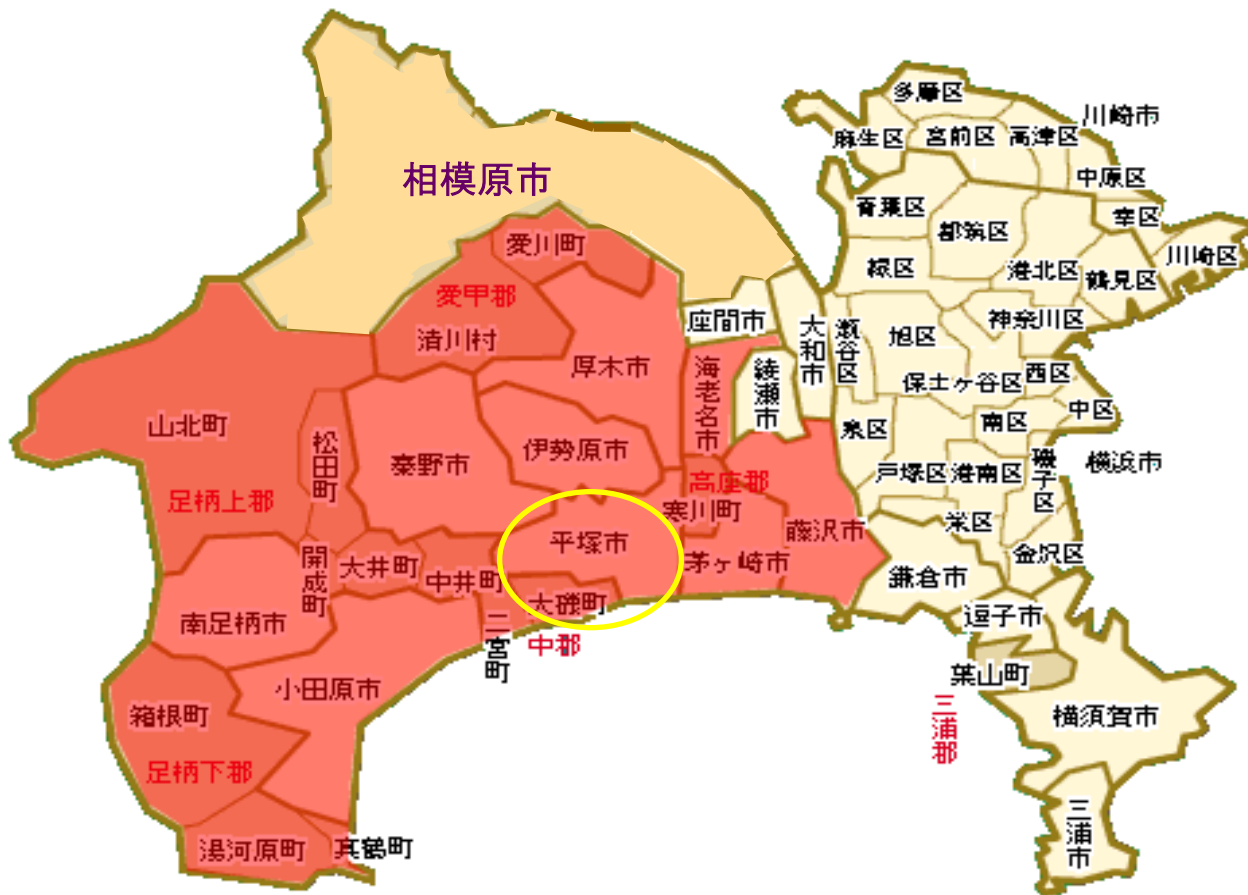


平成24年度 在宅医療連携拠点事業の報告



ひらつか在宅医療連携拠点事業所
医療法人救友会・湘南真田クリニック¹

平塚市は在宅医療・介護の先進地

●平塚市の取り組み

- ・人口：260,776人（2010年）
- ・ほほえみ福寿プラン（平塚市高齢者福祉計画）
- ・地域包括支援センター：8か所
- ・社会福祉協議会/ひらつか地域介護システム会議

●平塚市医師会

- ・平成13年度～平成18年度
湘南西地区医療圏在宅医療連携推進事業
- ・三師会在宅医療連絡協議会
- ・「平塚の在宅ケアを考える会」（在宅医療担当理事）

●在宅医療・介護に係る医療・介護事業所：588事業所

●連携拠点事業の取り組みの前提となる認識

- ・市行政、三師会、看護介護団体は活発に事業を展開。
- ・諸団体・事業所が個別に連携。連携推進の声が高い。

ひらつか在宅医療連携拠点事業所

湘南メディケアグループ(SMC)の事業 (月次概略)

- 湘南真田クリニック 家庭医療外来 1,200名、訪問診療 350 件
- SMC訪問看護ステーション 450 件
- SMCケアステーション 1,200 件
- SMC居宅介護支援事業所 60 名
- 通所介護 湘南メディケアガーデン 300 件
- メディカルホーム メディトピア真田 2009年度～ 入居者85人 看取り 30人

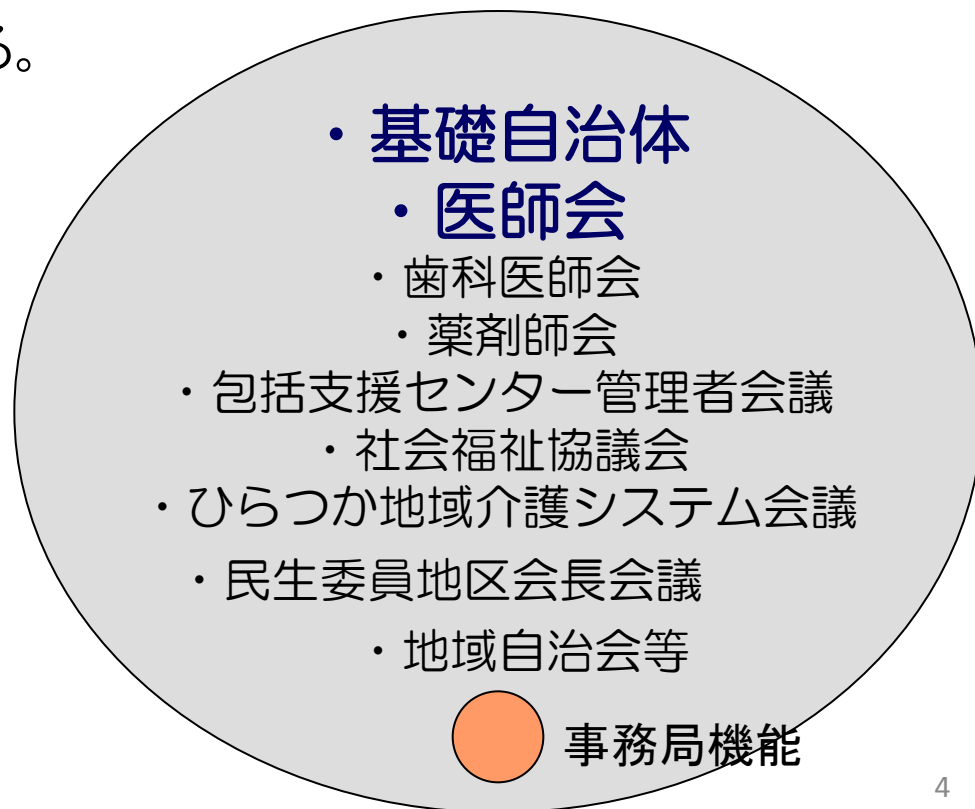
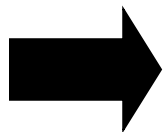
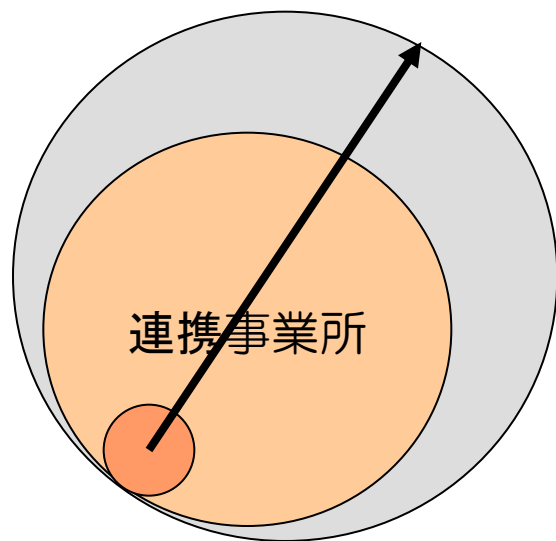
多職種協働が原動力

連携施設・事業所 (2009年2月～2012年3月)

急性期病院	10施設	訪問マッサージ	3事業所
亜急性・慢性期病院	5施設	薬局	16事業所
診療所	10施設	訪問介護ステーション	13事業所
歯科診療所	1施設	通所介護	10事業所
地域包括支援センター	7事業所	地域栄養事業所	1事業所
居宅介護支援事業所	27箇所	介護老人保健施設	5施設
訪問看護ステーション	10事業所	有料老人ホーム	4施設
通所リハビリテーション	5事業所	グループホーム	1施設
訪問リハビリテーション	2事業所	計	130施設・事業所

ひらつか連携拠点事業所のスタンス(目指した立場)

- 平塚市・三師会・包括・地域介護システム会議等の実績の上に連携事業を推進する。
- 連携拠点の外延的な拡張（点の拡張）ではなく、平塚市域全体（面）の在宅医療・介護の連携に資する。
- 行政と医師会・三師会にイニシアティブを求め、連携拠点事業所は事務局機能（黒子）の役割を担う。
- 徹底した説明と協議を実施する。



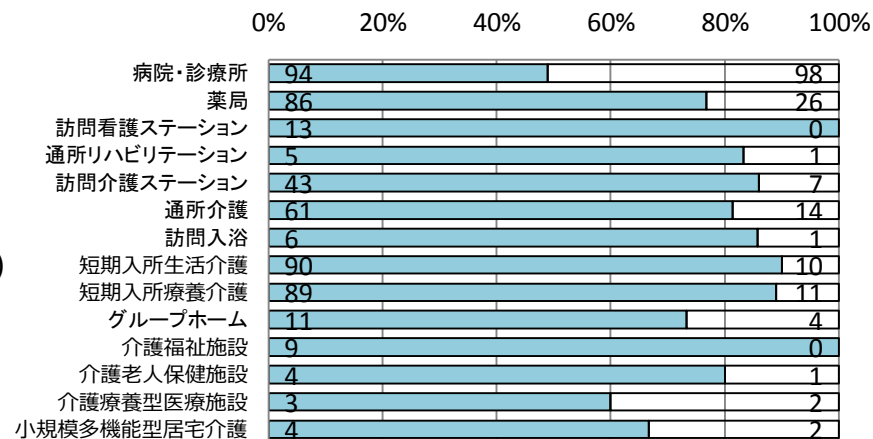
連携拠点事業所による説明・協議～連携を求めて

●2012年8月～2013年3月

- ・ 神奈川県医療課（地域リーダー研修等）
- ・ 平塚市福祉部/高齢福祉課・介護保険課
- ・ 平塚市消防本部
- ・ 平塚市社会福祉協議会
- ・ 平塚市医師会
- ・ 平塚歯科医師会
- ・ 平塚中郡薬剤師会
- ・ 三師会連絡協議会
- ・ 高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）管理者会議
- ・ ひらつか地域介護システム会議居宅介護支援連絡会
- ・ ひらつか地域介護システム会議サービス向上検討部会
- ・ 民生委員地区会長会議
- ・ 地域自治会等

在宅医療・介護資源に関する現状分析

- 実施主体 平塚市医師会・平塚歯科医師会・平塚中郡薬剤師会
平塚市福祉部・ひらつか在宅医療連携拠点事業所
- 調査目的 平塚市域における在宅医療・介護の事業所施設の現状分析
- 調査方法 郵送によるアンケート調査
- 調査機関 平成24年11月10日～11月31日
- 回答率 69%
(588事業所のうち404事業所)



結果 (概要)

- 医療機関・薬局は、訪問サービスを行う事業所の絶対数が少ない。
- 訪問看護事業所は悪性腫瘍末期、看取り、グリーフケアに対応できているが、小児・精神障害に対応できる事業所は少ない。
- 介護施設・事業所の多くは認知症に対応できているが、医療処置が必要な利用者に対応できる事業所は限られている。
特に、胃瘻や気管切開などの利用者の受入れ施設・事業所が少ない。
- ★医療・介護資源の充実が急務である。

高齢者よろず相談センターの調査

- 調査目的 多職種連携の問題点と課題の抽出
- 調査対象 平塚市高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）
- 調査方法 アンケート調査、一部聞き取り調査
- 調査期間 2月15日～20日
- 回収率 100%：8事業所

結果（一部）

- 医療と介護の連携における問題点・課題
 - ・入院時、退院時の情報共有が相互に不十分である。
 - ・総合病院・医療側に、在宅における生活の視点・認識が薄い。
 - ・医療対応と介護保険手続きに、スピードのギャップがある。
 - ・医師の諸会議への日程調整、指導助言の手段が確立されていない。
- 在宅医療・ケアについて、医師に理解を促すための取り組み
 - ・成功事例を紹介する機会を積み重ねる。制度的な決まりが必要
 - ・総合病院等の医師が生活の場について学ぶ姿勢が必要である。
 - ・地域での定期的な意見交換会を開催する。包括単独でのセッティングは困難。
 - ・平塚市の現状・問題点・課題をまとめ、情報を共有する。
 - ・医師とともに、患者のQOLや生活の場について考える。



在宅医療・介護・福祉を考える多職種フォーラム

後援

神奈川県
神奈川県医師会
神奈川県病院協会
神奈川県看護協会
平塚市
平塚市社会福祉協議会
平塚市医師会
平塚歯科医師会
平塚中郡薬剤師会

2013年2月9日

参加者総数 320名

SMC多職種連携会議～より良い多職種連携を求めて

事業所 湘南真田クリニック
SMC訪問看護ステーションさなだ
SMC訪問介護ステーションさなだ
湘南メディケアガーデン(通所介護)
SMC居宅介護支援事業所
メディカルホーム メディトピア真田

医 師	5名
保健師/看護師	16名
介護福祉士・介護士	25名
作業療法士	1名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	3名
事 務	10名



第1回	2013年1月10日	14名
第2回	2013年1月24日	12名
第3回	2013年2月14日	10名
第4回	2013年2月28日	7名
第5回	2013年3月14日	8名

タスク

- ・最も多職種連携が進んでいるSMCでの連携の問題点と課題の抽出、問題解決
- ・職員の負担軽減、作業効率の向上、利用者へのサービスの充実

➡ 地域包括支援センター・地域団体の講習会(民生委員・ケアマネ等)への講師派遣



在宅ケア介護従事者のための救命講習

第1回；2013年2月22日、第2回：2013年3月9日



在宅医療と救急医療との連携を求めて

ひらつか安心ファイルの作成

- 出来るだけ多くの在宅療養者に届ける！（要介護認定対象：約6000名）
- 平塚市、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護、連携拠点のメンバーで協議・作成
- 来年度、検証（予定）



ひらつか安心ファイル

- ・よりそいノート（県）
- ・連携ノート
- ・フェイスシート
- ・医療保険情報
- ・介護保険情報
- ・医療情報
- ・歯科情報
- ・薬剤情報
- ・ケアマネ情報
- ・その他

在宅チームのための情報共有システムの開発コンセプト及びその実装

多職種が使い易いシステムを目指し、モバコムヘルスケアとの共同研究でシステム開発を行いました。

開発コンセプト

スマートフォンを利用し、携帯メールができる人であれば利用可能なシステムを提供する。

- ✓ スマートフォンを公私に利用することを前提としたシステムを提供
- ✓ 医療従事者のプロフィールや写真で顔の見える環境づくりを支援
- ✓ 誰でも利用できる簡単な対話型のコミュニケーションを3種類のチャット機能で提供
 - ①医療・介護・福祉従事者間
 - ②患者・利用者軸
 - ③掲示板
- ✓ 連絡相手の作業状態を共有する仕組みを提供し、従事者の作業を中断せず、相手の状況を見て連絡を取り合うシステムの提供

実装

公私に利用



1台のスマホを公・私に分けて利用します。

統一画面



固定メニュー画面なので迷いません。安全なクラウドシステムを通して利用します。

プレゼンス



連絡可・作業中・終了という相手の状況を確認して連絡を取り合います。

従事者間連絡



チャットを利用し簡単にコミュニケーションを行います。チャットは専用サーバで稼働し、安全です。

患者情報の共有



患者基本情報の参照が容易です。

患者や利用者を対象にチームメンバーがリアルタイムにチャットします。

平成24年度の目標と到達点

- **目標**：先進の実績の上に、在宅医療・介護の連携を強化
そのため、行政、医師会・歯科医師会・薬剤師会、社会福祉協議会、介護保険事業所、市民が一つになる
- **到達点**：主たる事業
 - ・ 合同の調査（基礎自治体・三師会・連携拠点事業所）
 - ・ 多職種フォーラム
行政・立法、医療・介護・福祉従事者、民生委員・市民が参集
 - ・ ひらつか安心ファイルの作成
平塚市、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所と連携
 - ・ 在宅ケア介護従事者のための救命講習の定期開催
- **来年度に繋ぐ事業**
 - ・ 市域での在宅ケア多職種連携会議の設立、その下での事業化
 - ・ 多職種フォーラム、各種講習会、定期的な情報交換会の開催
 - ・ ひらつか安心ファイルの検証と改訂
 - ・ 医療・介護従事者が広く使用できるICTの開発と実証研究